

山口情報芸術センター [YCAM] : 企画展

カールステン・ニコライ + マルコ・ペリハン

新作インスタレーション「polar^m [ポーラーエム]」(YCAM委嘱作品)

2010年11月13日(土) - 2011年2月6日(日) 10:00-19:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA 入場無料

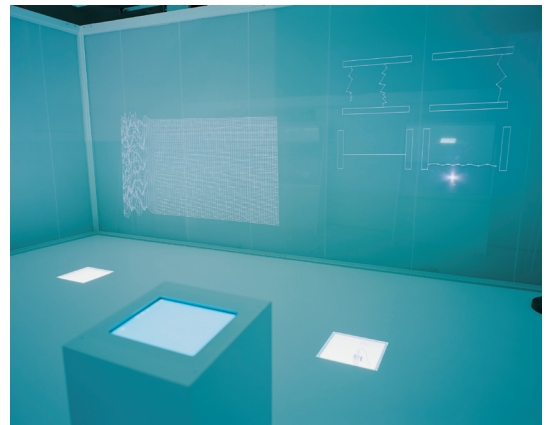
アーティストの画期的なコラボレーションによる10年単位の環境観測。
放射線データに着目し、人間存在と環境への新たな眼差しを提示する。

山口情報芸術センター [YCAM] では、アーティストの視点から地球環境と情報環境を観測する展覧会「polar^m [ポーラーエム]」を開催いたします。

本展は、世界的に活動が続けるカールステン・ニコライ(ドイツ)とマルコ・ペリハン(スロヴェニア)の2人のアーティストがコラボレーションし、10年に1度、それぞれの時代の最新の情報技術から、空間/時間への感覚の変化を捉える環境観測の方法を提案し、インスタレーション作品として展示するものです。

2000年には、展覧会「polar [ポーラー]」が日本で初公開され、「情報としての地球」「環境への眼差し」を強調する先見的なアイデアは、国際的にも高く評価^{*1}されました。それから10年を経た本展では、高度情報化が浸透した社会を探索する方法として、放射線データに着目しています。人間社会に留まらないすべての存在を、放射線データとの関係から描き出す独自のプラットフォームを提示し、映像やサウンドによって可視化する作品は、情報が組織する新たな環境への体験をもたらします。

* 2001年、国際的なメディアアートの祭典「アルス・エレクトロニカ」(オーストリア、リンツ)にて、ゴールデン・ニカ(大賞)を受賞。



参考写真:「polar [ポーラー]」(キヤノン・アートラボ企画展、東京、2000)

■ 内覧会

11月12日(金) 15:00-16:30

アーティスト、キュレーターによる解説のもと、作品発表をおこないます。

■ オープニングイベント

日独交流150周年記念事業

国際シンポジウム「アートから環境へ」

11月13日(土) 13:00-16:00

YCAM sound tectonics #8

オーディオビジュアルコンサート

「raster-noton evening (ラスターノトン・イブニング)」

11月13日(土) 19:00開演(30分前開場)

※要チケット

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当: 廣田

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 e-mail: information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

アートからの長周期的な環境観測

2000年「polar [ポーラー]」から10年を経て生まれる2010年「polar^m [ポーラーエム]」

「polar」とは、対極・極点を示し、本展においては、現実の空間と情報ネットワーク空間を関係づける、地球の電磁場や磁極を意味します。さらには、地球環境、情報環境を10年ごとの長周期で定点観測し、未知なる極地としての環境を探索する意図が含まれています。

アーティストのカールステン・ニコライとマルコ・ペリハンは、1997年に出会って以来、「polar [ポーラー]」でのコラボレーションをおこない、私たちがいま生きている環境と、その変化を巨視的・微視的に捉え続けています。本展でも、科学的知見や常識だけでは捉えがたい世界観や空間／時間の変容を、アートによる感覚や体験、さらには、情報を媒介とするメディア表現の機能によって明示します。不可視のデータから映像やサウンドを形づくる新作インスタレーションからは、これまでにない環境のあり方が見えてきます。

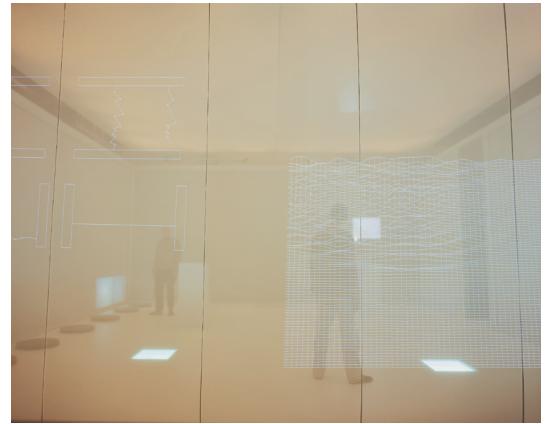
2000年の展覧会「polar [ポーラー]」¹から10年を経た今回の「polar^m [ポーラーエム]」では、現在における最新の情報技術を応用しつつ、自然環境、社会環境、情報環境の関係性を考慮する新たな表現への方法が試されます。たえず変動する環境創造のプロセスを、地球の電磁環境、生態系から捉えるために、本展では「放射線(radiation) データ」に着目し、これまでとは異なる新たなアイデアによって、インスタレーションを構成しています。

作家プロフィール

カールステン・ニコライ | Carsten Nicolai

ビジュアルアーティスト、作曲家、ミュージシャン

1965年東ドイツ生まれ。現在、ベルリンとケムニッツを拠点に活動。ビジュアルアートと電子サウンドといった異なる領域の表現をハイブリッドツールとして用いる作品で知られる。その表現は、物理現象、生命現象、カオス現象などにもおよぶ。サウンドパフォーマンスでは、記号的なコードを視覚化し、ポストテクノ音響のみならず、現代美術やメディアアートでも国際的に高く評価されている。ミュージシャンとしては、notoおよびalva notoの名で、数々のアーティストとコラボレーションをおこなうほか、池田亮司とのユニットcyclo.としての活動でも知られる。2005年には、光と音と建築の共生体となるインスタレーション「syn chron」をYCAMにて発表。



参考写真：「polar [ポーラー]」（キヤノン・アートラボ企画展、東京、2000）

¹2000年「polar [ポーラー]」について

初のインスタレーション作品「polar [ポーラー]」（2000年/キヤノン・アートラボ企画展）は、体験者が特殊なインターフェイスによって収集した作品空間の情報（周囲の映像、音、温度、重力加速度）をもとに、独自に開発した知的情報検索システムが稼働し、光、映像、音がダイナミックに変動するインスタレーションです。

本作は、SF作家スタニスワフ・レムが発表（1961）した小説をアンドレイ・タルコフスキーが映画化（1972）した「惑星ソラリス」における、人間の想念を物質化させる「ソラリスの海」を発想の起点としています。インスタレーションでは、体験者のふるまいやシステム内の検索学習に応じ、空間が微細に変容し続けます。同時に、データの取得によって不可視の情報空間が組織されていくことで、知的生命体のように徐々に複雑化する環境のあり方と、そのプロセスが明示されました。本作は、2001年のアルス・エレクトロニカにてインタラクティブアート部門のゴールデン・ニカ（大賞）を受賞。その構想を受け継ぐ新たなバージョンでの展示/発表が待望されてきました。

マルコ・ペリハン | Marko Peljhan

コンセプチュアルアーティスト、メディアアーティスト

1969年スロヴェニア生まれ。現在、カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授、同校芸術研究所の共同ディレクターを兼任。1995年には、アート&テクノロジーのオーガニゼーション「Zavod Projekt Atol」を設立。オープンソースおよび戦略的メディアを基盤とした技術開発のためのグローバルなネットワーク「PACT Systems」を開始。このほか、音楽レーベル「rx:tx」を主宰。1997年より、テレコミュニケーション、気象観測システムなどにフォーカスした極地移動ラボプロジェクト「Makrolab」を実施。ユーリ・ガガーリン宇宙飛行士トレーニング・センター（モスクワ）とMIR協会（Microgravity Interdisciplinary Research）との共同プロジェクトのコーディネーターも務める。

新作「polar^m [ポーラーエム]」—放射線データによる関係世界

地球の電磁波から派生する環境を、放射線データから捉える

新作インスタレーション「polar^m [ポーラーエム]」(YCAM委嘱作品)は、左右対称に設置された7m四方の2つのキューブ状の構造体と、3つのオブジェから構成されます。これは、地球上の電子的文明の発生源と、それを取り巻く生態系を含む環境を、私たちが感覚するための装置として機能します。

作品空間では、体験者を含むすべての存在が放射線との関係からセンシングされ、それをもとにインスタレーションは常に変動を続けます。そのプロセスは、微細なグラフィックの映像や特殊なサウンドによって空間全体を変容させ、「放射線(radiation) データによる関係世界」が描き出されます。体験者は、片方の構造体の内部には入れますが、もう1つには入れず、外側からしかうかがうことができません。この2つの構造体の関係はアーティストの投げかけた問いのひとつとなっています。

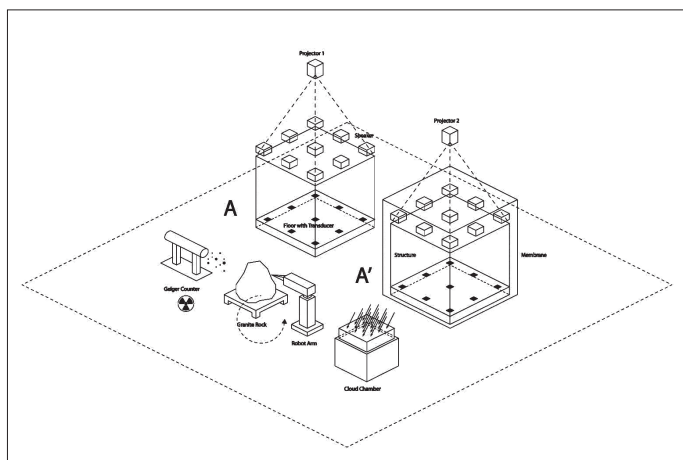
メディアテクノロジーとともに、物質的/非物質的な自然現象を導入した本作は、絶えず変動を続ける不可視のデータを知覚可能な表現へと還元する、これまでにない発想のインスタレーションです。作品空間の変容から、新たな環境のあり方を体験することができます。

インスタレーションについて

■ 2つの構造体—キューブ空間

2つの構造体は、放射・放射線・無線によるセンシングとセンサーのための観察システム、そして自律的なクリエイションシステム(構造体自体の値やデータの出力)の2つの層から成立しています。

構造体内部では、特殊なサウンドが反響し、床面には映像が投射されています。構造体は、体験者が中に入ることのできる「A」をオリジナルの存在として、また、外側からしか近づけない「A'」をその「ミラー」的存在とし、不可分な関係を保っています。それらは常に均衡状態を作りつつも、互いに干渉し、微細にまたダイナミックに変化していきます。



左：作家による展示プラン(予定)

■ 3つのオブジェ—放射線を可視化するシステム

地球/宇宙の電磁波から派生する環境を、放射線データから捉え、可視化するシステムは、ガイガーカウンター(放射線計測装置)、砕石装置(放射線発生装置:ロボットと花崗岩¹⁾)、クラウドチェンバー(放射線可視化装置:霧箱)という3つのオブジェから構成されます。ガイガーカウンターの値によってロボットが稼働し、花崗岩を削烈音とともに粉碎し続けます。クラウドチェンバーは、粉碎の際に変動する放射線、周囲の空間に帯びる微弱な放射線、さらに宇宙からの放射線の軌跡を、アルコール蒸気の霧上の線分として可視化させます。

¹ 山口県周南市産出の岩石(徳山みかげ)

■ 無重力へと誘うサウンドシステム

放射線の計測値は、サウンドの時間・周波数・増幅へ、そして、高周波無線は、サウンドのマトリクスへと変換され、構造体内部に反響します。ここでは、私たちの耳内の構造を利用する特殊な音響技術²が採用されており、無重力状態にあるような知覚をもたらします。この平衡感覚を変化させるサウンドシステムによって、体験者は、身体が浮遊するかのような感覚を体験します。

² 耳音響放射(Otoacoustic emission)

オープニングを記念し、豪華ゲストによるイベント、開催決定！

オープニングイベント

日独交流150周年記念事業

国際シンポジウム「アートから環境へ」

日独交流150周年を記念した特別イベントとして、本展アーティスト、キュレーター、さらにドイツ、日本から識者を招いたシンポジウムを開催します。メディア技術によるアート表現が、不可視のデータを映像やサウンドなどの感覚可能なものとするとき、どのような可能性や未来が開けるのか。また、アーティストは、科学的見地を経ながら、今後、どのような視点で環境を捉え、提言していくのか。ニコラ・テスラをはじめとする歴史的事例から現在までを参照しつつ探っていきます。

YCAM sound tectonics #8 オーディオビジュアルコンサート

「raster-noton evening (ラスターノトン・イブニング)」

本展のオープニングを記念した最新鋭メンバーによる特別コンサート。本展のアーティストであるカールステン・ニコライと池田亮司によるユニット cyclo. が、約10年振りに新コンテンツを携えて臨む世界ツアー。物理学/数学からの独自のリサーチを応用する音響を、世界トップクラスの音響・映像環境を誇るYCAMで表現します。このほか、byetone、nibo、さらに、テイラー・デュプリ、坂本龍一との共演でも知られるクリストファー・ウィリッツが特別出演。ラップトップミュージックの最強メンバーによる圧倒的な映像表現、電子音響を体験してください。

関連イベント

専門スタッフとともに作品を巡るギャラリートour

YCAMでは、専門のスタッフとともに作品を体験し、鑑賞のポイントを発見するギャラリートourを、週末を中心に開催します。

※各日開催までにYCAM1Fチケットインフォメーションまでお申し込みください。

11月13日(土) 13:00-16:00 入場無料

会場：ホワイエ

出演：カールステン・ニコライ、マルコ・ペリハン、
アンドレアス・ブレックマン(ドルトムントU館長) ほか
モデレーター：四方幸子(ゲストキュレーター)、阿部一直(YCAM)
※逐次通訳あり

共催：ドイツ文化センター・大阪

11月13日(土) 19:00開演(30分前開場)

会場：スタジオB

料金：前売 一般3,000円 / any 会員・特別割引2,700円
当日 3,500円(オールスタンディング / 300名限定)

出演：cyclo. [カールステン・ニコライ+池田亮司]、
byetone [オラフ・ベンダー]、nibo
ゲスト：クリストファー・ウィリッツ

11月20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)
12月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)、18日(土)、
19日(日)
1月8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日)、23日(日)、
29日(土)、30日(日)
(期間中全17回)
各回14:00-15:00

開催概要

山口情報芸術センター [YCAM]：企画展

カールステン・ニコライ+マルコ・ペリハン

新作インスタレーション「polar^m [ポーラーエム]」(YCAM委嘱作品)

2010年11月13日(土) - 2011年2月6日(日) 10:00-19:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

入場無料

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)、12月28日-1月4日

<http://polar-m.ycam.jp/>

主催：財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

助成：スロヴェニア共和国文化省、カリフォルニア大学芸術研究所
協賛：株式会社資生堂

製作協力：カリフォルニア大学サンタバーバラ校メディアアーツ・アンド・テクノロジー・プログラム、ZAVOD PROJEKT ATOL
機材協力：財団法人高輝度光科学研究センター (JASRI)

技術協力：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

日独交流150周年記念事業 国際シンポジウム
共催：ドイツ文化センター・大阪

YCAM sound tectonics #8「raster-noton evening」
平成22年度優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

キュレーター：四方幸子(ゲストキュレーター)、阿部一直(YCAM)